

# 全般季節予報支援資料 1か月予報 2014年1月31日

予報期間：2月1日～2月28日 気象庁地球環境・海洋部

## 全般季節予報

### (1) 特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は、気温の変動が大きい見込みです。1週目後半から2週目にかけて、北・東・西日本では、気温がかなり低くなり、北日本日本海側では降雪量がかなり多くなる可能性があります。

### (2) 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東日本日本海側では、平年に比べ雪または雨の日が多い見込みです。西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨が多いでしょう。北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

### (3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
	低並高		少並多	少並多	少並多
北日本	40:40:20	北日本日本海側 北日本太平洋側	30:30:40 40:40:20	40:30:30 20:40:40	30:30:40
東日本	40:40:20	東日本日本海側 東日本太平洋側	20:40:40 30:40:30	40:40:20 30:40:30	30:30:40
西日本	30:40:30	西日本日本海側 西日本太平洋側	30:30:40 30:40:30	40:30:30 30:40:30	30:40:30
沖縄・奄美	30:40:30	沖縄・奄美	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	50:40:10	40:40:20	30:30:40
東日本	20:50:30	60:30:10	30:40:30
西日本	10:40:50	60:30:10	30:40:30
沖縄・奄美	10:30:60	50:30:20	40:30:30

## 最近1週間の天候経過

最近1週間(1/25～1/30)は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過した。期間のはじめは、日本海を低気圧が通過したため気温が上昇し、1/25には北海道や日本海側を中心に気温の平年差が+5℃以上となった。1/27は西高東低の冬型の気圧配置となり全国的に低温となったが、期間後半は、北日本付近を通過した低気圧に吹き込む南風の影響や、高気圧に覆われた影響で、気温が高くなったところが多かった。1/30も気温の平年差が+5℃以上のところがあった。この1週間では、気温は全

国的に平年を上回った。低気圧の影響を受けやすかった北日本では降水量は平年を上回り、日照時間は平年を下回ったが、それ以外の地方では降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回った。

## 予報資料の解釈

### ● 1か月 (2/1~2/28)

- 500hPa 高度は、本州付近は弱い正偏差、沖縄・奄美は東西にのびる帯状の弱い負偏差に覆われる。850hPa 気温は、中央シベリアから日本海にかけて広範囲で負偏差となっており、日本付近も寒気の影響を受ける時期があることを示唆している。

### ● 1週目 (2/1~2/7)

- 500hPa 高度は、北日本は負偏差、東日本以西は正偏差で、西日本以西では明瞭。
- 海面気圧は、アリューシャン低気圧がオホーツク海付近で強く、北日本付近では冬型の気圧配置が強い予想。シベリア高気圧は、その南側部分で平年より弱く、東日本以西では西高東低の冬型の気圧配置が弱い予想。
- 下層気温は、北日本は負偏差。本州付近では正偏差で、沖縄・奄美で明瞭。
- 週間予報資料によれば、気温は、全国的に、期間の中頃までは平年並か平年より高い日が多く、平年よりかなり高くなる日もある。期間の終わりは、平年並か平年より低くなる。北日本と東・西日本日本海側は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本太平洋側は、期間の中頃は気圧の谷の影響で雨の降る所がある。その他の日は高気圧に覆われて晴れるが、西日本では寒気の影響で雲が広がり、雨の降る所がある。沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れる日があるが、期間の中頃は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がり、雨の降る所もある。

#### ▶ 想定される天候

- 北日本日本海側では、寒気（冬型の気圧配置）や気圧の谷の影響で、平年に比べ曇りや雪の日が多い。
- 東日本日本海側では、気圧の谷や寒気の影響で、平年に比べ雪または雨の日が多い。
- 西日本日本海側では、寒気の影響で、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。
- 東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、寒気の影響が平年より弱めで、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

### ● 2週目 (2/8~2/14)

- MJO の対流活発位相が東進し、インド洋中部（南半球側）に到達する。
- 200hPa 流線関数は、インド付近で高気圧性循環偏差となるが、インド洋中部（南半球側）の対流活発が影響しているとみる。そこから亜熱帯ジェット沿いの波束伝搬で、中国南東部から沖縄・奄美で低気圧性循環偏差が明瞭になってくる。
- 500hPa 高度は、1週目後半から2週目前半にかけて、中国東北区付近にあった明瞭な負偏差が、弱まりながら北・東日本付近まで南下してくる。2週目後半は、1週目にアラスカ付近にあった顕著な正偏差（ブロッキング）が、アリューシャン付近まで西進して、北日本は正偏差となる。ただし、正偏差の北日本から東シベリアへの張り出しはメンバー間のバラツキが大。一方、中国南東部から沖縄・奄美では、負偏差となってくる（前述の200hPa 流線関数の低気圧性循環偏差に対応するもの）。
- 海面気圧は、日本海へのシベリア高気圧の張り出しが強い。北日本は、高気圧に覆われやすい。本州南岸付近は負偏差だが、2日目資料では弱まった（沖縄・奄美以外は、擾乱がたびたび通過する予想では無くなったとみる）。
- 下層気温は、全国的に負偏差。

- ・ 北日本は寒気の影響も受けるが、高気圧に覆われやすい。北・東・西日本、沖縄・奄美は寒気の影響を受けるが、太平洋側と沖縄・奄美は、南東から湿った空気の影響も受ける。

▶ 想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、寒気の影響で、平年と同様に曇りや雪の日が多い。
- ・ 東・西日本日本海側では、寒気の影響で、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い。
- ・ 北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。
- ・ 東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美は、寒気や気圧の谷の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

● 3～4週目 (2/15～2/28)

- ・ インド洋中部（南半球側）の対流活発が継続する予想。200hPa 流線関数のインド付近の高気圧性循環偏差、中国南東部から沖縄・奄美の低気圧性循環偏差も継続し、北日本付近の高気圧性循環偏差にも、この波列が影響しているとみる。しかし、インド洋中部（南半球側）の対流活発は、海面水温偏差の初期値固定の影響をうけており、過剰とみる。このため、波列パターンは割り引いて考える。
- ・ 500hPa 高度は、オホーツク海付近では明瞭な正偏差となっており、高偏差確率にも現われている。北日本もやや明瞭な正偏差となっている。しかし、予測精度が低いブロッキングの影響や、前述の亜熱帯ジェット沿いの波列パターン（海面水温偏差の初期値固定に一部起因）が影響しており、北日本付近の正偏差は割り引く。また、沖縄・奄美付近の負偏差も、亜熱帯ジェット沿いの波列パターンが影響しており、割り引く。
- ・ 下層気温は、北日本ではやや明瞭な正偏差、東・西日本ではゼロ付近、沖縄・奄美でやや明瞭な負偏差。前述の理由で、北日本の正偏差、沖縄・奄美の負偏差は割り引く。天候は、全国、平年と同様を見込む。

▶ 想定される天候

- ・ 北日本日本海側は、寒気や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雪の日が多い。
- ・ 東・西日本日本海側では、寒気の影響により、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- ・ 北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

気象庁ホームページ

○季節予報

[http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001\\_00.html](http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html)

○「向こう1か月の天候の見通し（1か月予報の解説）」

<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>

も参照してください。

---

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。